

令和4年度学校自己評価システムシート（県立熊谷特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒の障害特性や教育的ニーズを踏まえた最適な学びを進め、一人一人の良さや可能性を最大限に伸ばし、保護者・地域から信頼される学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の可能性を引き出す授業実践 保護者・地域と連携した社会に開かれた学校づくりの推進 子どもたちが安心安全に過ごせる教育環境の整備・充実 教職員を元気に！！組織で進める学校働き方改革の推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価（2月1日現在）			実 施 日 令 和 5 年 2 月 3 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	○保護者との合意形成による教育支援プランに基づく、一人一人の課題や手立てを明確にした丁寧な授業づくりが行われている。 ○個別最適化された学びの実現には ICT の活用は不可欠であり、児童生徒、保護者からの期待やニーズは年々、高まっている。そのため、教職員一人一人の実践的指導力を更に高める必要がある。 ○児童生徒の多様な教育的ニーズに対応するためには、自立活動部、支援部、寄宿部、外部専門家等との連携による支援体制づくりを進める必要がある。	(1)児童生徒一人一人が主役の授業づくりと学習評価の充実	①児童生徒一人一人の丁寧な実態把握と課題の明確化を図り、チーム内で共通理解を図る。 ②創意工夫を凝らした実践や好事例を共有するとともに、学習評価を積極的にに行い、授業改善に取り組む。	①チーム内で児童生徒の実態や課題を共有することができたか。指導の方向性を図ることができたか。 ②日々の学習評価を基に、授業改善が進められたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①丁寧な実態把握に基づく授業づくりが行われている。 ②クラス、学年、類型間において丁寧な話し合いや評価が実施されており、授業改善が進んでいる。	A	①保護者アンケートでは、「適切な言葉遣い」、「学習の様子の伝え方」などでは課題も見られている。保護者との丁寧なコミュニケーションを更に進める必要がある。	・個々の児童生徒に合わせた教育支援を今後もチームで取り組んでほしい。アンケート評価にもよく表れている。 ・ICTは、今後とても重要なツールとなることが想定される。教職員のスキルアップが大変だと思うが、ぜひ頑張ってもらいたい。 ・障害が重度である程、家族の心配事や悩みは増していく。教員で抱えるだけでなく専門職を交えて分散して指導してほしい。	
		(2)ICTを活用した個別最適化された学びの確保	①授業の中で ICT を効果的に活用することにより、児童生徒一人一人の主體的な学びを促す。 ②教職員の学び合い、優れた実践事例や成果の共有、質の高い研修の充実を図る。	①ICTを効果的に活用し、児童生徒の学習理解、定着、活用に活用が見られ、実践を蓄積することができたか。 ②学びや研修の成果を授業に生かし、教員一人一人の力量を高められたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①児童生徒一人一人の実態に応じた ICT の活用が効果的に進んでおり、個別最適化された学びが確保されている。 ②個々のレベルに合わせた研修会が計画され、スキルアップが図られている。	A	①指導者用端末（サーフェス）の整備に伴い、指導者用の研修を充実させる必要がある。 ①高等部においても段階的に一人1台端末の整備が示されており、ICT 機器を活用した授業づくりを更に進めていく必要がある。		
		(3)教職員一人一人の実践的指導力の向上	①学級・学年・学部を超えた校内組織の活用や外部専門家等との連携による支援体制づくりを進める。	①学校全体がチームとして協働し、児童生徒・保護者の多様なニーズに対応することができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①理学療法士、言語聴覚士等を活用した巡回教育相談を実施するなど、教育的ニーズを踏まえた多面的な支援が実施できた。	B	①重度・重複化する児童生徒の教育的ニーズを踏まえ、外部専門家等の効果的な活用を更に進める必要がある。		
		(4)多様なニーズに対応する支援体制の構築	①HPでの教育活動の発信を更に充実させるとともに、学校運営協議会を有効に機能させる。	①本校の教育活動を地域に発信することや協働での学習活動を検討・実施することができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①地域・学校間交流として、11団体との交流教育を実施した。地域の学校としての認知と、支援・連携体制の構築が進められた。	B	①コロナ禍ではあるが、内容や方法を工夫する中で、「地域の方や学校との交流」を引き続き、計画的に進めていく必要がある。		
2	○令和2年度よりコミュニティースクールとして活動をはじめたがコロナ禍により、取り組みが難しい現状がある。 ○通学区域は、6市8町1村と広域であるが、特別支援学校のセンターの機能を活用した地域支援には積極的に取り組んでいる。 ○連続性のある多様な学びの場の充実に向け、コロナ禍ではあるが、創意と工夫により、支援籍学習にも積極的に取り組んでいる。	(1)コミュニティースクールとしての学校づくりの推進	①地域の就学前施設、小・中・高等学校からの相談等に対して適切な助言・支援を実施する。	①コーディネーターや支援部を中心として、保護者・地域からのニーズに丁寧に対応できたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①センターの機能の実施件数として、相談事業116件、研修事業15件、リモートによる情報交換会など、地域・保護者・学校からのニーズに丁寧に対応できた。	A	①地域や学校からのニーズの把握に努めるとともに、より組織的に対応できるよう支援連携体制を強化していく必要がある。	・「パナソニックワイルドナイツ」、「武蔵ヒートベアーズ」と交流しているが、「エルフィン埼玉」にもぜひ声かけてほしい。 ・コーディネーターの役割は、増えるニーズにとって重要な位置付け。障害者福祉サービスと連携すると更に情報が得られて、相談等に適切な支援ができると思う。 ・児童生徒にとって、関わる機会が多いということは重要と思う。次年度は更に学習の機会が増えることを期待する。	
		(2)特別支援学校のセンターの機能の充実	①校内環境衛生及び健康観察の徹底を図り、安心安全な学習環境づくりを行う。	①感染防止対策ガイドライン等を踏まえるとともに、感染対策等が徹底できたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①感染症対策を徹底し、内容や実施方法等を工夫する中で、予定されていたすべての学校行事を実施することができた。	A	①感染症対策における基本的な対応（手洗い・うがい・換気）と、家庭との連携による健康観察を引き続き徹底していく。		
		(3)連続性のある多様な学びの場の充実	①担任、看護教員、養護教諭、保護者がチームとして連携し、安心安全な医療的ケアを実施する。 ②計画的にヒヤリハットの事例を共有することにより、危機意識の向上を図る。	①情報共有を図りながら、安心安全な医療的ケアが実施できたか。 ②ヒヤリハット事例を共有することにより、教職員の危機意識が高められたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①毎月、医療的ケアに係る検討委員会を開催するなど、教職員間で共通理解を図りながら、安全・安心な医療的ケアが実施できた。 ②職員会議においてヒヤリハット事例を共有し、再発防止に繋げることができた。	A	①医療的ケア児の家族支援法案の施行を踏まえ、引き続き、安心・安全な医療的ケアの実施とともに、県とも連携を図りながら保護者負担の軽減に取り組む必要がある。		
3	○新型コロナウイルス感染症予防に対する健康観察の徹底、学習上の環境衛生・感染症対策に対する意識は高い。 ○医療的ケア、発作時の対応等について関係者間での情報共有と緊急時の対応訓練が計画的に実施されている。 ○教育活動におけるヒヤリハットについて組織的に情報共有が図られている。 ○予期せぬ自然災害や事故、感染症を想定した組織的な訓練や準備を継続する必要がある。	(1)新型コロナウイルス感染症予防の徹底と学習環境の整備	①様々な場面を想定して組織的に対応できるよう準備・取組を進める。	①事故等の緊急時や自然災害等への組織的な対応に向け実践的な訓練や準備ができたか。 (保護者・教職員アンケート活用)	①各種緊急時対応訓練を実施することができた（引き渡し訓練、医療的ケア緊急対応訓練、避難訓練、不審者対応訓練、等）	B	①組織的対応のマニュアルの見直しや整備に継続して取り組む必要がある。	・コロナ禍で行事を中止にすることは簡単だが、工夫して実施していることが素晴らしい。新しい方法を考えつつ、継続して頑張ってもらいたい。 ・医療的ケアは、思わぬ事故などが想定されていて、特に慎重に意識を持つことが必要。 ・ヒヤリハットの事例の共有経験を生かし、今後も再発防止に努めてほしい。 ・予期せぬ災害に対して児童生徒を安全に守る為、マニュアル作成と訓練は必須。校舎に合わせてより正確な対策と準備をお願いしたい。	
		(2)安心安全な医療的ケアの実施	①デジタルツールの積極的な活用、会議等の見直し、教材・教具の共有化、学校退勤時間の設定、学校閉庁日、ノー会議デー、ふれあいデーの計画的な実施など、教職員が本気で取組を進める。	①教職員一人一人の働き方に関する意識が高まり、メリハリのある働き方ができたか。 (健康チェックシート、ストレスチェック、教職員アンケート等、活用)	①学校退勤時間（19時）を定めるなど、メリハリのある働き方が進められている。本校の「時間外勤務月45h以上」の割合は、約4%であり、県平均の12%を大きく下回っている	B	①時間外勤務者については、ほぼ固定されており、引き続きの声掛けやねぎらいとともに、仕事の標準化を進める必要がある。		
4	○学校全体として、時間外勤務の状況は県平均を下回っているが、個々に見ると時間外勤務が多い職員もいる。 ○総業務量の削減や仕事の均等化等を図り、一人一人の働き方に対する意識改革を進める必要がある。	(1)教職員一人一人の働き方に対する意識改革を図る						・教職員アンケートの記述で管理職にとって厳しい内容を開示している。校長の決意が伝わり、改善の意識が伝わってくる。 ・世間でも教職員の過重労働は度々話題になっている。難しい問題だが、頑張っている教職員がきちんと評価されることを願う。	